



# 9月議会 個人質問しました。

## 子育て支援について

**西川** 認定こども園のメリットは1号認定(=幼稚園過程)の保護者が就労を希望すれば2号認定(=保育園過程)に変更できると説明がありました。民間のこども園では、その変更が難しいという声があります。その原因は何でしょうか。また改善はできるのでしょうか?

**A** 園ごとに1号、2号の定員設定があり、保育教諭体制を確保する必要があるため、年度途中の認定変更は、空きがなければ困難な場合もあるが、保育枠の拡大に努めています。

さらに

\*新2・3号とは・・・預かり保育や認可外保育施設等を利用している児童が保育の必要性の認定を受ける制度。

気になっていたこと、  
聞いてみました!

八尾市立病院



**西川** 市立病院は性暴力被害者支援ネットワークの協力病院をされています。この取り組みについて教えてください。

**A** 性暴力救援センターは阪南中央病院に大阪SACHICOとして設置されています。当院は協力医療機関として、被害者の診察や証拠物採取、SACHICO等への連携を平成29年から当院産婦人科で対応しています。当院としては継続して産婦人科を中心に貢献して参りたい。

\*その他の質問事項…6波対策を含むコロナ禍における対応について、緩和ケアについて等。

2021年(令和3年)9月定例会 西川あり個人質問

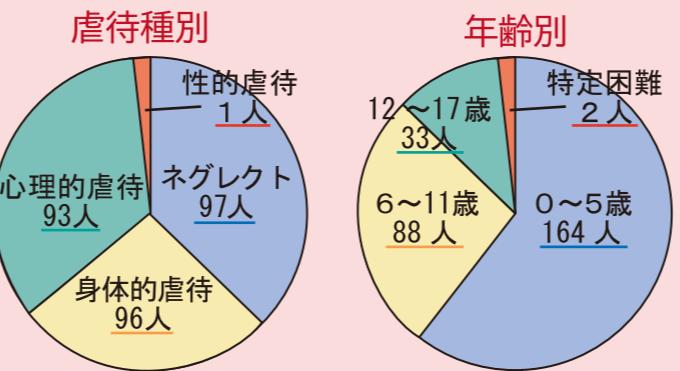


## 誰もが利用できる公園のありかたについて

**西川** 障がいの有無にかかわらず、だれもが生き生きと遊び、学ぶ公園を目指したユニバーサルデザインの視点の導入に向けての八尾市の取組みについて教えてください。



**A** 今現在あるのはレイズベッドと呼ばれる花壇のタイプで、車いすでも寄りつけて世話ができるような仕組みを3公園に設置しています。ただ、遊具等についてはまだ実施できていない状況です。



**西川** 今後、身近な公園で、インクルーシブ遊具(年齢や障害の有無にかかわらず皆で遊べる遊具)を取り入れることは可能でしょうか?

**A** 住民の理解、スペースの問題、遊具の価格など課題はありますが、公園は身近な公共施設であり、誰もが利用できる場所であると考えています。しっかりと情報を収集し、できるところから対応して行きたいです。新設の公園などで、積極的に検討して行きたいです。

ひとこと

●誰もが利用できるユニバーサルデザインの公園という概念を広げたいです。インクルーシブ遊具の導入により、すべての子どもにとって、権利として「遊び」が保障される社会になれば、子どもの育ちが豊かになるのではないでしょうか?

## 10月13日 健康福祉環境委員会での主な質疑

### 産後ケアとママ・サポート

**西川** 産後、たいへんな時期の母親のケアですので、その心理や体の状態をよく理解されている方にサポートしていただきたいと考えますが、それはいかがでしょうか?

**A** 産後のヘルパー事業として、出産前後に親族などからのサポートが難しい方を対象にサービスを行っています。事前に相談して、利用者に寄り添った支援ができるように努めており、研修は保育士資格者が行っています。

**西川** 産後ケア事業について教えてください。

**A** 産後、心身ともに不安定な時期に、特に支援が必要な方にご利用いただくもので、デイサービス、宿泊型があり、7日間が上限です。利用料は宿泊型自己負担5600円、非課税・生活保護世帯の方は、1400円で、デイサービスは2800円、非課税・生活保護世帯の方は700円です。八尾市内には実施機関がなく、東大阪市、大阪市にある機関で実施していますが、市内での事業拡充を検討しています。

2021年(令和3年)9月定例会 予算決算委員会  
健康福祉環境分科会(10月13日)



### 障がい児通所給付事業

**西川** 児童発達支援と放課後等デイサービスの利用者数が年々増えていることと、計画相談を受けていない方が多いことについての考え方をお聞かせください。

**A** これらの事業は乳幼児からの早期発見から早期支援につながっていると思っています。障害福祉課ではサービス利用について、手帳がなくても医師の診断や、関係・専門機関の意見書などで、課題に応じたサービスを提供できるよう支援しています。計画相談の割合が低いということについては、支援員の方の充足が不十分ということ、サービスの種類が少ないのでプランの必要性を感じられない親御さんも多いようです。計画相談の意義は大きいと思いますので、今後広がるように努力したいと考えています。

ひとこと

●2020年度の決算が承認されました。今回、初めて保健・福祉・環境分野の決算を委員会で審議しました。今までの教育分野との関連性が高く、より教育と福祉の連携については重要性を認識しました。今後も、補正予算や新年度予算案についてもしっかり見ていきたいと思います。

### 学校図書室から学校図書館へ

大阪府教育委員会「スクール・エンパワメント推進事業」研究指定校「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」となっている用和小学校の公開授業、講演会に参加してきました。どんな図書館だったらみんなが使うかを、子どもたちの声も重視しながら、先生も使いたくなる図書館へと改修していく過程のお話が聴けました。印象に残ったのは、屋上で読書してみたいと言った声が実現されていることです。子どもたちの一生の思い出になるんじゃないでしょうか!特別講演には、埼玉県立飯能高校図書館主任司書の湯川康宏先生のお話でした。学校の隅っこにある図書館に生徒たちに来てもらうことから始めたお話は、本当に見てみたいとなる居心地の良い場所に変貌していました。図書館の役割は施設5%、資料20%、人が75%。人がいないとただの本の倉庫。これまでの固定観念を捨て、子どもの声に耳を傾け、情報を得る一つのきっかけとなる本を知ってもらう、そのきっかけを奪わないこと。というメッセージも心に響きました。